



(写真左から) 犬塚さん、武者さん、吉田さん

Spotlight
スポットライト

洞爺しあわせ食堂の 皆さん

間もなく昼食時を迎えるある土曜日。ゲームに熱中したり、読書にふける子どもの様子は自宅での休日を

思わせますが、ここは町の施設、あぶた母と子の館の一室。入口に「洞爺しあわせ食堂」ののぼりがはためいたこの日はビーンバ井が振る舞われ、

遊んでいた子どもたちもさっそくはしを動かしました。昼食の匂いに包まれた食堂を見守るのは3人の女性です。町民が自由に憩える場をつくろうと、町と労働者共同組合ワーカーズコープが地域食堂を始めたのは2018年。スタッフの一人、吉田祥

実さんが加わったきっかけはコロナ禍でした。介護の現場で働きながら一人の母親として忙しい日々を送る中、交流が絶たれた子どものために家でも学校でもない居場所が必要だと考えていました。

2022年に洞爺しあわせ食堂がオープンし、武者さやかさん、犬塚陽子さんも協力。週替わりのメニューには訪れる小中学生の声が生きていま

す。餅つきのリクエストがあればうすときねを借り、外国の料理に興味を持った子のためにベトナム料理に挑戦した日も。有珠山をイメージした「ジオサンド」作りでは、子どもたちも一緒に腕を振るいました。

『おじゃまします』じゃなくて『ただいま』と言ってもらえる場所にしたい。おばあちゃんの家に遊びに来る感じかな。3人の人柄に惹かれてか、今では毎週土曜の開催日には30人ほどが訪れるようになりました。防災教室や、町のファミリー・サポート・センター事業にも協力するなど活動の幅も広がっています。

多感な年頃の子どもたちと過ごした4年間。「ここに来たら自分の子のつもりで接します。ダメなものもダメ、良いものは良いと伝えるのは大切ですから」。イメージするのは親でも先生でもない「おせっかいおばさん」。ここだけで見つけられる小さな幸せを探して、子どもたちに寄り添い続けています。

東奔西走

「うにフェス」での一番人気はやはり焼きウニ。大人ははしが止まりませんが、初めて食べる子どもの中には神妙な面持ちも。慣れない味に食べ切れない子もいましたが、いつか美味しさがわかるはず！(D.Y)
町内でも夏のイベントやおまつりが続々と開催されています。夏のおまつりといえば、花火や盆踊り、縁日などありますが、私はやはり「冷たいビール」です！(笑) 皆さんも飲みすぎには注意しましょう。(M.O)

町公式LINEを友だち追加！

イベントや防災など様々な情報に加え、フルカラー版広報紙もご覧いただけます！

